

三重津海軍所跡 24 区（船屋地区）調査

現地説明会資料

佐賀市では昨年度に引き続き船屋地区の発掘調査を実施しています。船屋地区の発掘調査は、平成 21 年度（8 区・17 区）、平成 28 年度（23 区）につづき 4 箇所目になります。発掘調査の結果、梁行 12m 程 × 桁行 52.5m 程の大型の建物であることが判明しました。この建物の存在は昨年度の調査でわかっていましたが、今回の調査ではその規模を明らかにすることができました。

発掘調査の結果、建物柱列には基礎のため打ち込まれたと思われる杭を 30 箇所検出（28 年度調査で 17 箇所、29 年度に 13 箇所確認）していますが、このような杭は未調査箇所も含めると最大 75 箇所存在したと想定されます。また、建物柱列によって異なる基礎工法がみられることが判明しました。

なぜこのような大きな建物が建てられたのか、どうしてこのような工法が用いられたのか、上屋の構造はどのようなものだったのか、今後は発掘調査の成果を踏まえ、絵図や文献調査成果、土木や建築の面からの検討を慎重に行い解明していきたいと考えています。

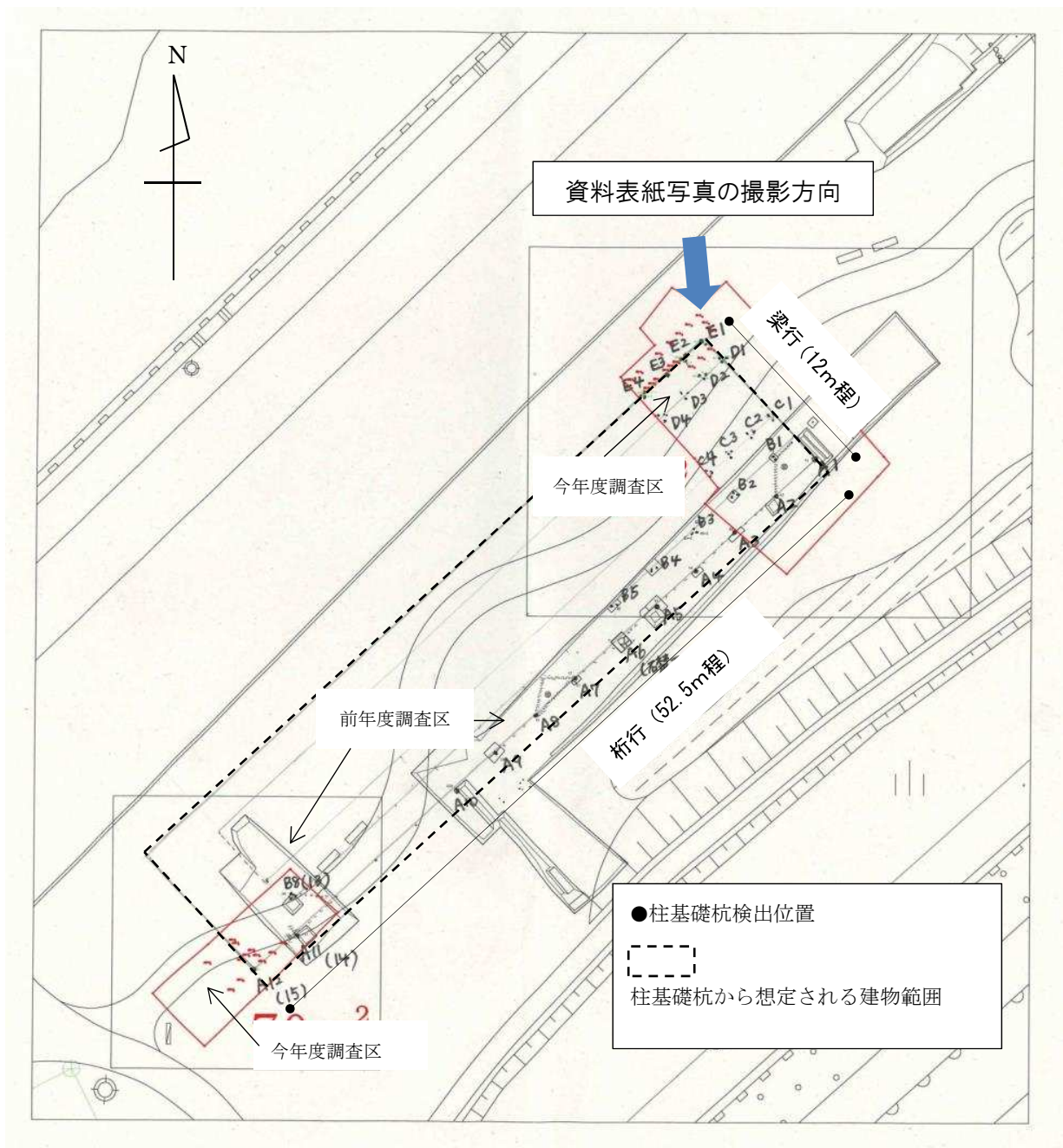
今回の発掘調査で検出した建物の遺構は、史跡整備を進めるうえで貴重であるとともに、不明なことが多い江戸時代の軟弱地盤上での建物建設や土地造成の実態を解明するうえでも重要であると考えます。



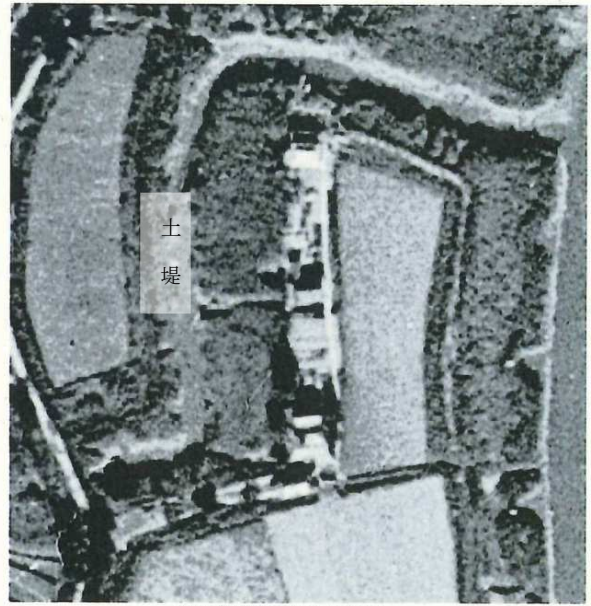
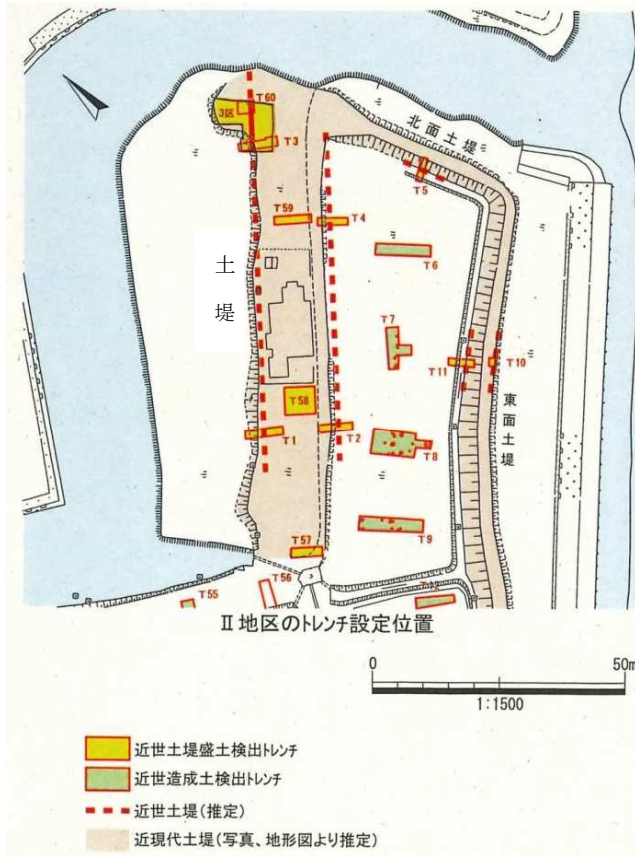
建物端部を俯瞰した写真

写真は建物北東の端のみですが、実際は梁行 12m 程 × 桁行 52.5m 程の大型の建物が存在していました。

当時存在した建物は、写真より更に南西方向に向かって桁が伸びています。



検出遺構平面図（平成 28～29 年度） 2018.01.27 段階



米軍撮影写真(1948年)

建物が建てられた空間

建物の三方にコ字状に土堤が築かれていたことがこれまでの調査でわかっています。

建物は土堤で区画された内側の敷地を最大限つかって建てられたことが明らかになりました



「三重津海軍所船屋絵図」佐賀県立図書館蔵



土堤内に建てるのが計画された建物(破線) →
「材木小屋 幅六間 長サ三拾間」



「川副東郷上下村」「川副下郷早津江村」合成図
寛政4年〜5年（1792-1793年）

※絵図が製作された時点で既に陸地化していたことを示します。

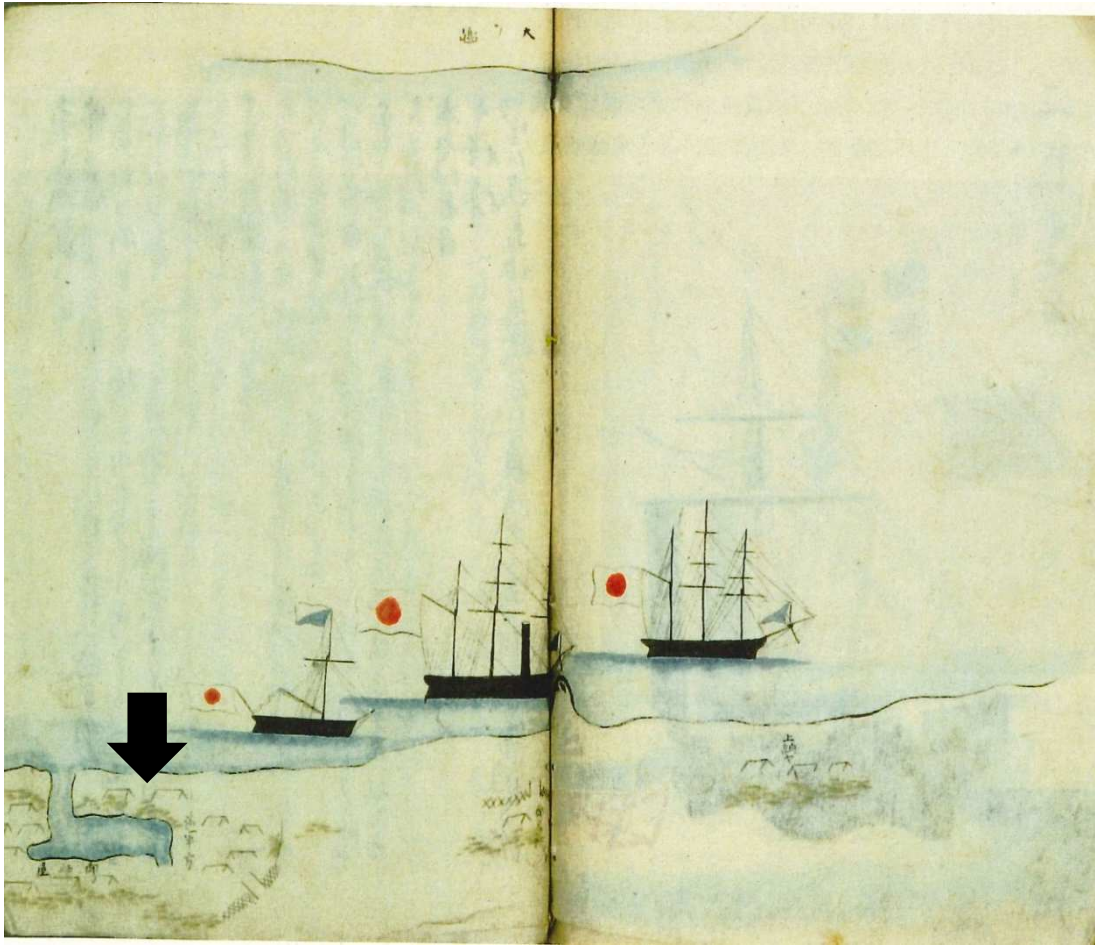


建物地下で検出した厚い貝殻（牡蠣殻）密集層

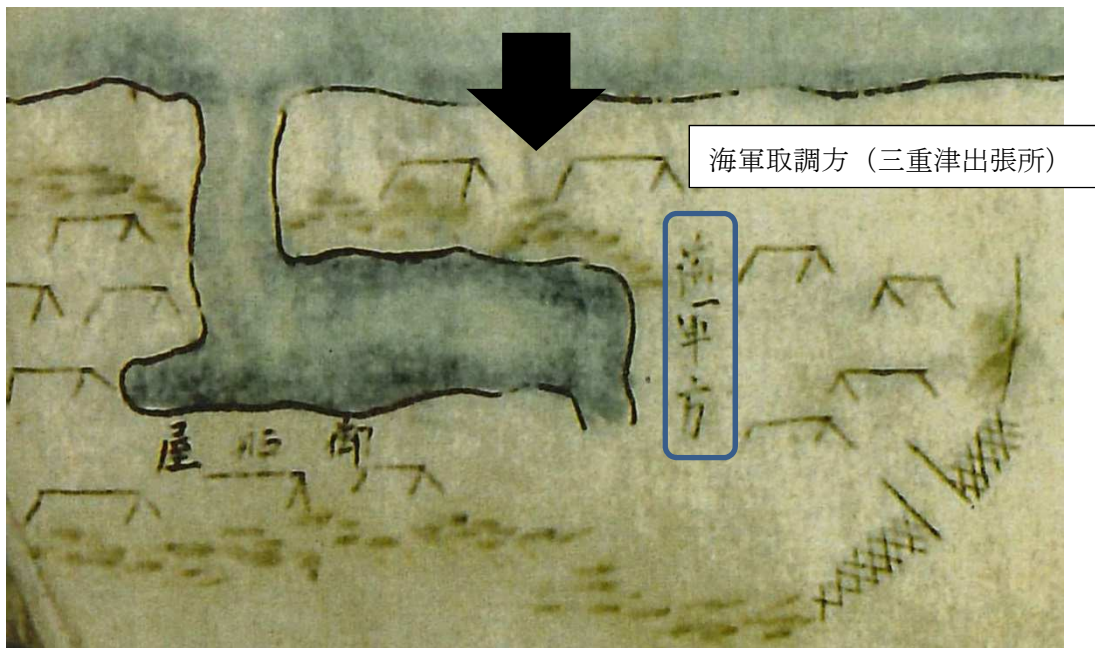
遺構を検出した地面から1.4～1.6m程下部で密集した貝殻層（厚さ1.5m程）を確認しました

牡蠣のみで構成され、破砕片が多く不規則な向きに混交し、土等の層を挟まず密集して堆積しています。上面に変形痕がみられることから人（2本足）か動物（4本足）が貝殻堆積後に歩いた痕跡（生痕）の可能性が高いです。貝殻を投入して安定した基盤を確保した上でなんらかの作業を行った痕なのかもしれません。今後の調査で性格解明が課題となりました。

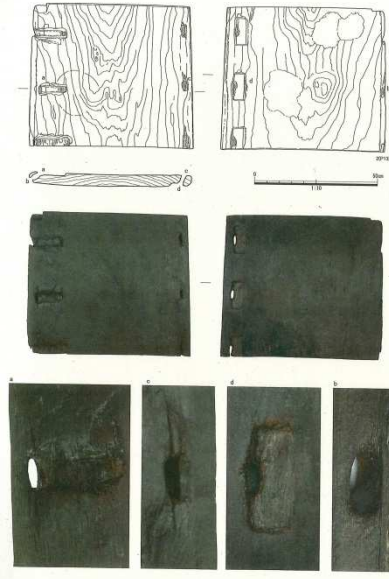
その他の絵図と建物群



鍋島家文庫「白帆注進外国船出入注進 坤」公益財団法人鍋島報效会蔵 (S 複鍋 252-56-02) 佐賀県立図書館寄託



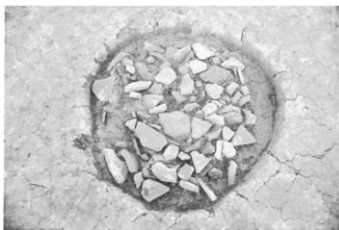
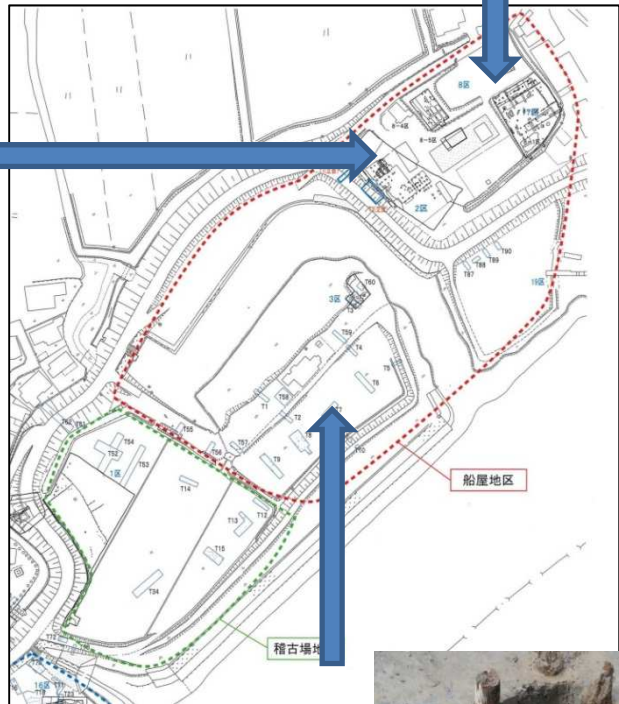
(参考資料) 船屋地区で検出した建物基礎構造比較



関船（軍船）解体材を使用

入頭痕

Fig. 010 関船解体材 (1/10)



1. P2141 (北東から)



3. P2121 (北西から)

